

千葉県いすみ市（国内 35 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 3 年 1 月 11 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、32 例目の農場（令和 2 年 12 月 24 日発生）から約 500m 離れた山間部に位置し、付近は森林に囲まれている。
- ② 農場の周囲にはため池や堰、ダム湖はなかった。32 例目の調査時には、農場から約 1.6km の距離にある堰ではキンクロハジロ 2 羽が、約 2.6km の距離にある堰ではマガモ 39 羽、キンクロハジロ 2 羽、ホシハジロ 1 羽が認められた。
- ③ 当該農場には育雛舎 2 棟、成鶏舎 4 棟で計 6 棟のウィンドレス鶏舎があった。成鶏舎の各棟の内部が壁で区分され、1 棟あたり 2 鶏舎となっていた。4 棟の成鶏舎への出入口は一か所であり、各棟の間は内部で行き来が可能な構造であった。発生鶏舎は、4 棟ある成鶏舎の入口側から 2 番目の棟の入口側の鶏舎であり、発生時には、1 つの成鶏舎を除くすべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、令和 2 年 12 月 19 日から令和 3 年 1 月 9 日まで 4~38 羽程度で推移していたとのこと。
- ② 1 月 10 日の午前中の見回りで、17 羽の死亡が確認され、このうち 3 羽が鶏舎奥の同一ケージにまとまって確認されたため、従業員が簡易検査を実施したところ、陽性反応が確認されたことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 71 名の専属の従業員のうち 32 名が鶏舎管理を担当していた。鶏舎ごとに担当者が決まっており、4 名が発生鶏舎の管理に携わっていた。飼養管理者によると、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていたとのこと。
- ② 鶏舎管理以外の 39 名は、集卵作業や鶏糞処理、経理事務等にそれぞれ従事しているとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は農場に入る際は手指の消毒を実施し、農場専用の作業着及び長靴を着用していた。また、鶏舎に入る際は鶏舎専用の作業着、長靴及び手袋の着用と手指消毒を実施していたとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養鶏への給与水は地下水を使用しており、ろ過、消毒して給水している。
- ④ 鶏糞は除糞ベルト及びベルトコンベアで鶏舎から堆肥舎まで直接運搬され、コンポストで堆肥化している。なお、堆肥舎には建屋があった。
- ⑤ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、鶏糞搬出のベルトコンベアで堆肥舎まで直接運搬して、鶏糞とともに堆肥化しているとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、発生鶏舎を含む全鶏舎は、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、普段は農場敷地内の鶏舎周回道路に消毒薬の散布を行っていたが、32 例目の発生以降は、農場敷地内全体への消石灰の散布に切り替えていたと

のこと。

- ⑧ 飼養管理者によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、入口に設置された自動消毒ゲートによる消毒を行っているとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の鶏舎構造は、鶏舎奥側の壁面に設置された換気扇から排気し、入口側の壁面に設置された遮光性の通気口及び天井裏の通気口から入気するタイプの鶏舎であった。壁面の通気口の内側及び換気扇の外側には開閉可能な板が設置されていた。
- ⑩ 飼養管理者によると、当該農場と他農場との間では、器具、機材及び重機等を共有することはないとのこと。
- ⑪ 飼養管理者によると、1月7日に発生鶏舎奥の通用口の扉が突風により開いてしまい、従業員が気付くまでの数時間程度、開放されたままであったとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場敷地内ではカラスやスズメ等が確認されることがあるとのことであり、調査時にも、農場敷地内でカラスや小型鳥類が確認された。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあるとのことであり、定期的にネズミ対策（殺鼠剤の設置）を実施しているとのこと。なお、32例目の発生に伴い、当該農場におけるネズミや野生動物の目撃が増えたことはないとのこと。調査時には、発生鶏舎内でネズミ類の死体やネズミ類のものと思われる足跡が確認された。
- ③ 鶏舎から集卵施設までの集卵ベルトの経路はすべて屋内にあり、野生動物が侵入可能な開口部等は確認されなかった。
- ④ 飼養管理者によると、鶏糞を搬出するベルトコンベアの鶏舎側の開口部は、運転時以外は板で閉じられているとのこと。